2018年12月17日

第6回 全国外大連携プログラム 通訳ボランティア育成セミナー 報告書

主 催

全国外大連合

開催日程

2018年8月29日（水）～31日（金）

開催場所

神田外語大学（千葉県）

後 援

東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部
文部科学省　外務省　観光庁　東京都　千葉県
公益財団法人 ラグビーワールドカップ2019組織委員会
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会
NPO法人 日本オリンピック・アカデミー
一般社団法人 全国外国語教育振興協会

※東京2020参画プログラム「TOKYO2020教育プログラム」認証済

目　次

1. セミナー概要　・・・p. 3
　1-1 大学別の事前申込者数と受講者数
　1-2 学年別受講者数
　1-3 男女別受講者数
　1-4 対応可能言語
　1-5 第1回～第6回までの受講者数推移
　1-6 大学別の人材バンク登録者数

2. 学生の参加動機　・・・p. 6
　2-1 参加目的
　2-2 参加へのきっかけ

3. 参加後の自己評価　・・・p. 7
　アンケートによる集計

4. 各講義内容について　・・・p. 9
　講義名
　講師名
　参加者課題『講義レポート』より

5. セミナーの様子（写真）　・・・p. 32

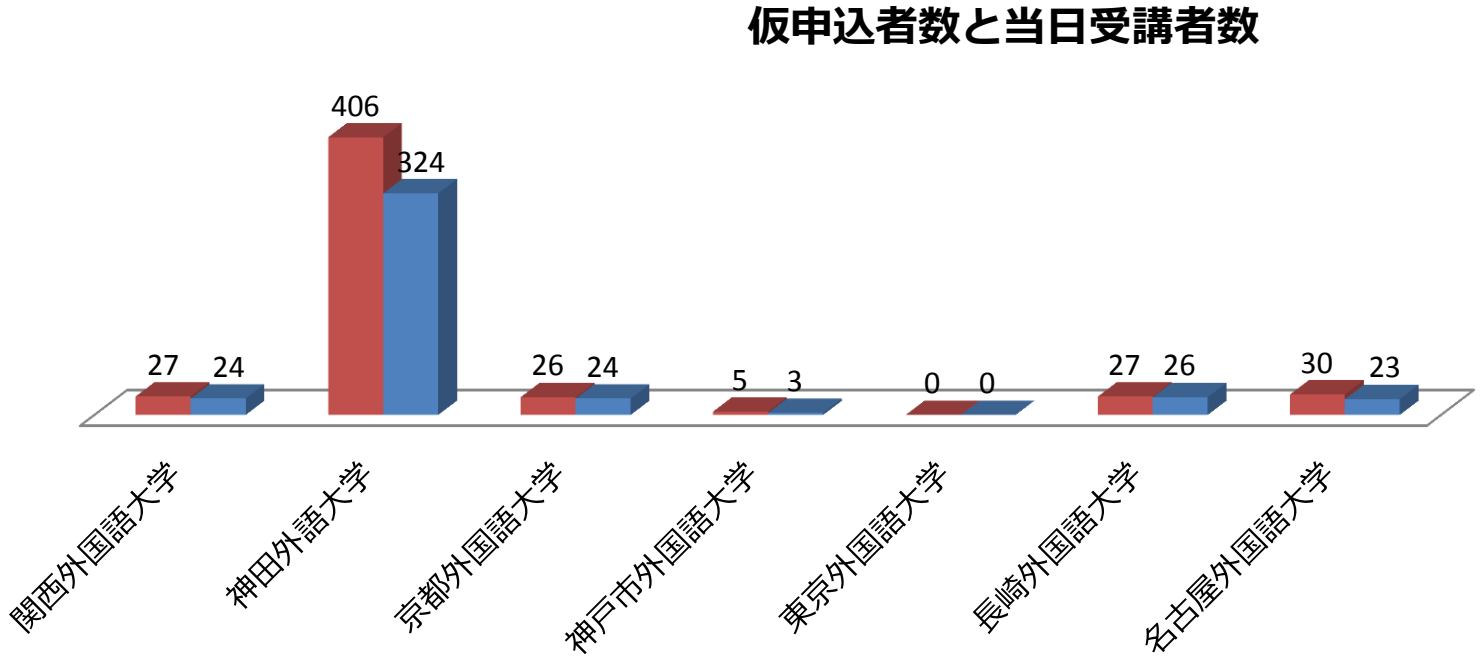
1. セミナー概要

1-1 大学別の仮申込者数と受講者数

単位：人

大学名	仮申込者数	募集枠（英語）	募集枠（英語以外）	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	27	20	各言語40名 ・中国語 ・韓国語 ・スペイン語 ・ポルトガル語	24	21
神田外語大学	406	120		324	280
京都外国語大学	26	20		24	23
神戸市外国語大学	5	20		3	3
東京外国語大学	0	20		0	0
長崎外国語大学	27	20		26	25
名古屋外国語大学	30	20		23	23
合計	**521**	240	160	**424**	375
		400			

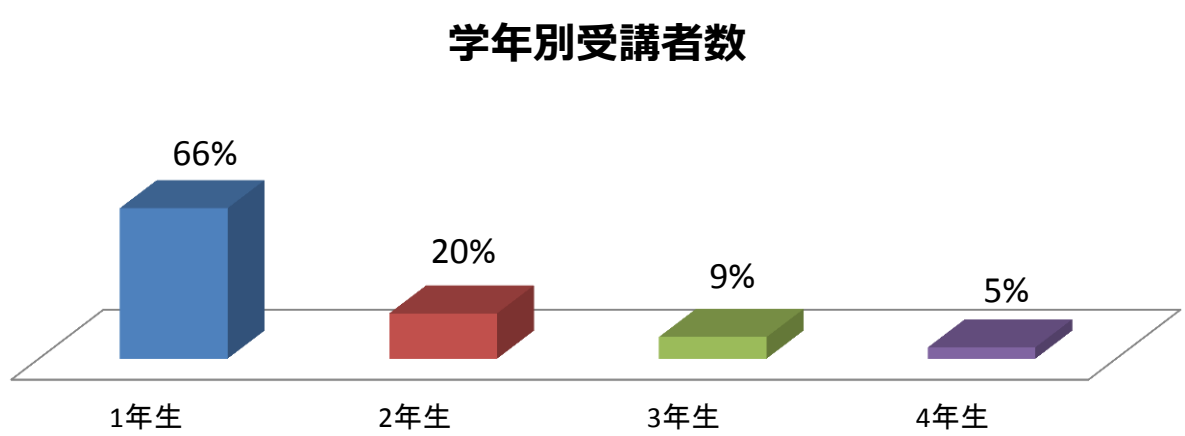
※神田外語大学の学生については申込者が多かったため、KUIS生324名のうち132名については、9月5日（水）～7日（金）同内容で開催した「神田外語大学版通訳ボランティア育成セミナー」を



1-2 学年別受講者数

単位：人

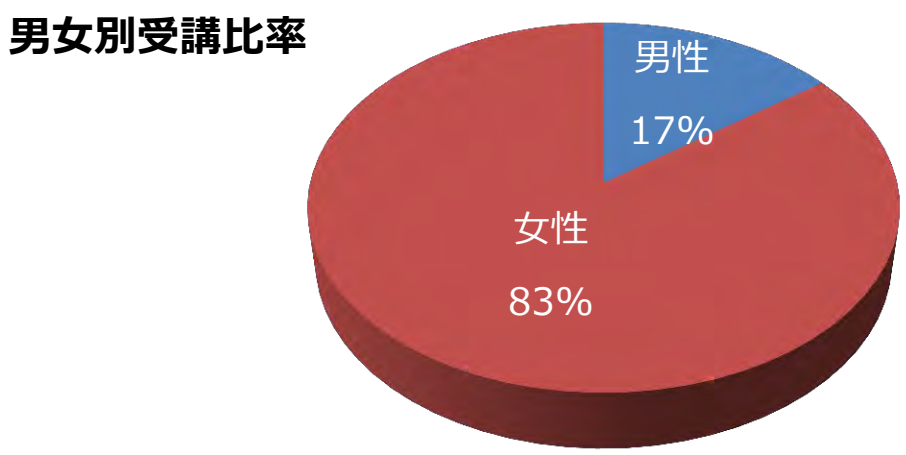
大学名	BASICコース		INTERMEDIATEコース		大学別計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
関西外国語大学	0	0	14	10	24
神田外語大学	242	66	12	4	324
京都外国語大学	15	7	1	1	24
神戸市外国語大学	0	1	2	0	3
東京外国語大学	0	0	0	0	0
長崎外国語大学	11	3	9	3	26
名古屋外国語大学	11	7	2	3	23
学年別計	**279**	**84**	**40**	**21**	424



1-3 男女別受講者数

単位：人

大学名	男性	女性	大学別計
関西外国語大学	5	19	24
神田外語大学	48	276	324
京都外国語大学	2	22	24
神戸市外国語大学	0	3	3
東京外国語大学	0	0	0
長崎外国語大学	4	22	26
名古屋外国語大学	4	19	23
男女別計	**63**	**361**	424

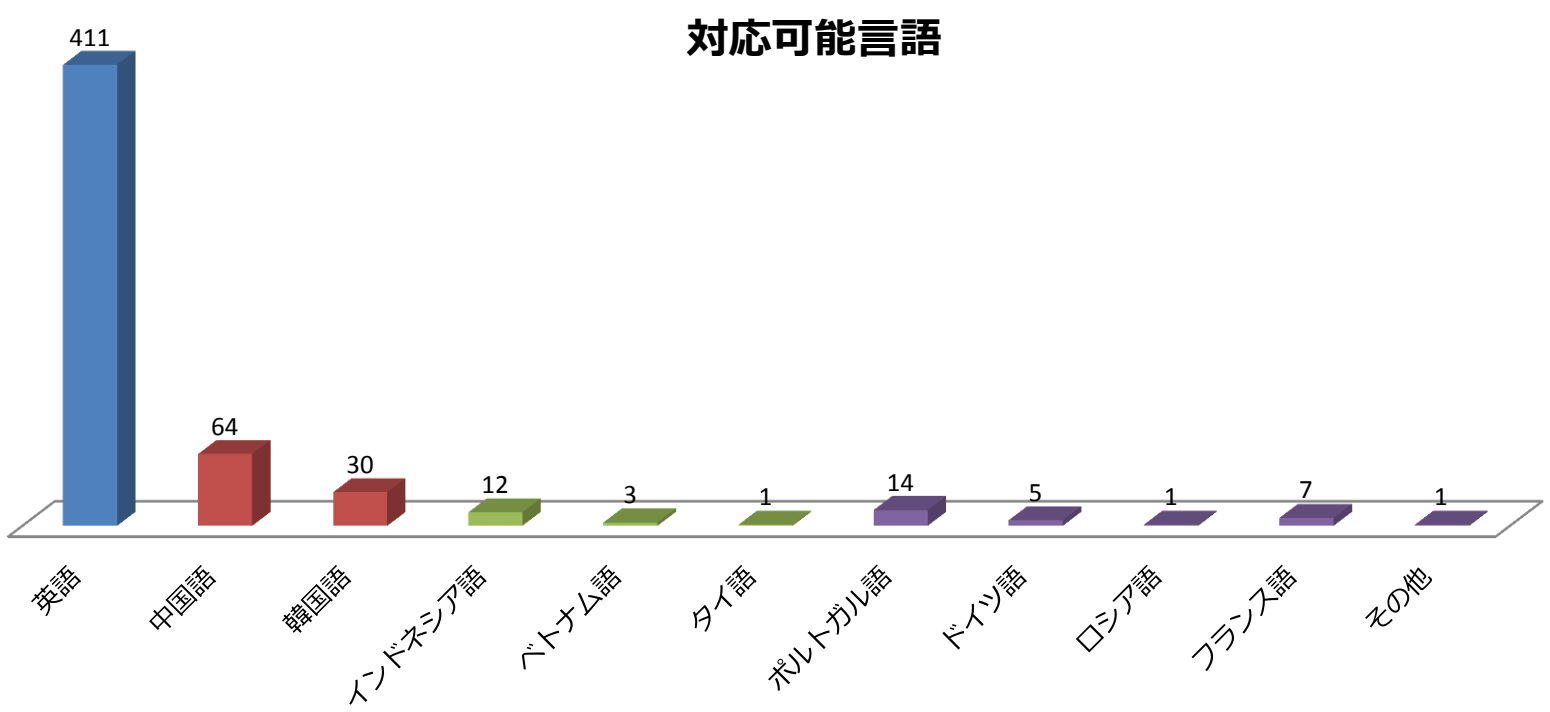


1-4 対応可能言語

単位：人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
411	64	30	12	3	1
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
44	14	5	1	7	1

※受講者の対応可能言語内訳を示す。



1-5 第1回～第6回までの受講者数推移

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	各大学総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	24	184
神田外語大学	119	120	220	17	221	324	1021
京都外国語大学	27	21	54	60	55	24	241
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	3	29
東京外国語大学	6	1	0	0	4	0	11
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	26	122
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	23	150
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	424	1758
受講者数推移（延べ数）	236	433	800	978	1334	**1758**	

1-6 大学別の人材バンク登録者数（第1～6回開催分総計）

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	各大学総登録者数
関西外国語大学	27	24	29	39	33	22	174
神田外語大学	106	111	204	4	159	281	865
京都外国語大学	27	21	53	47	49	23	220
神戸市外国語大学	9	4	5	6	0	3	27
東京外国語大学	4	1	0	0	4	0	9
長崎外国語大学	20	13	25	6	18	25	107
名古屋外国語大学	26	14	30	24	19	23	136
回毎の登録者数	219	188	346	126	282	377	1538
登録者数推移（延べ数）	219	407	753	879	1161	**1538**	

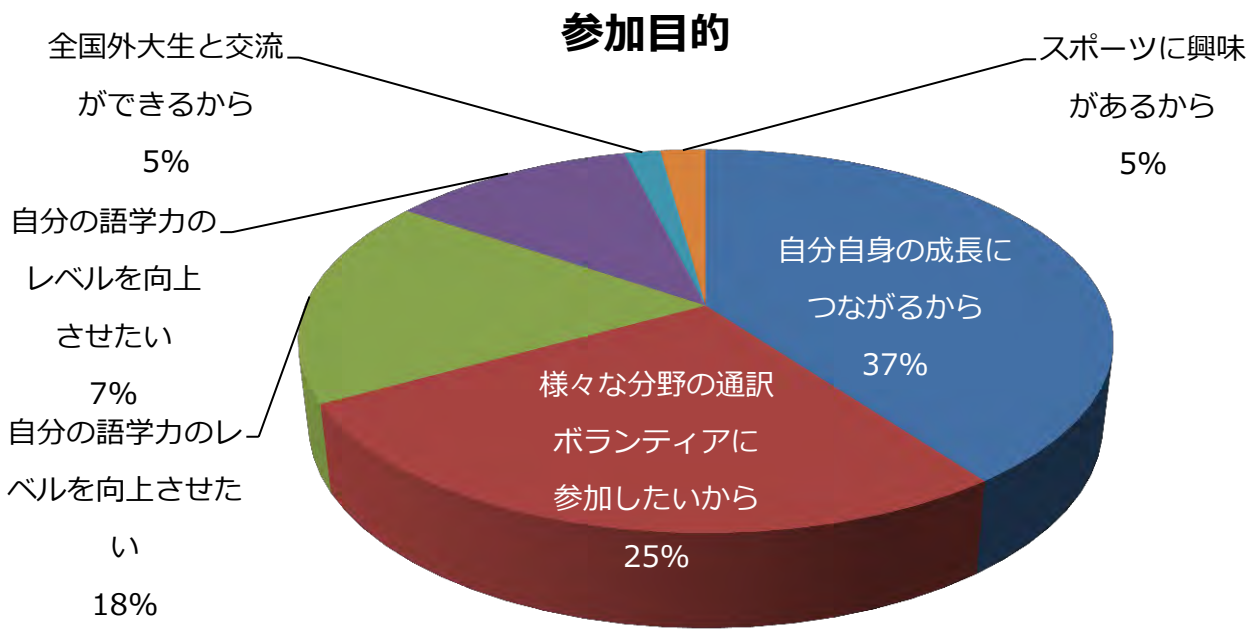
2. 学生の参加動機

2-1 参加目的

単位：人

参加目的	回答数
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	184
自分自身の成長につながるから	93
グローバルに活躍したいから	63
自分の語学力のレベルを向上させたい	41
スポーツに興味があるから	27
全国の外大生と交流ができるから	4
その他	5

回答者数：233人

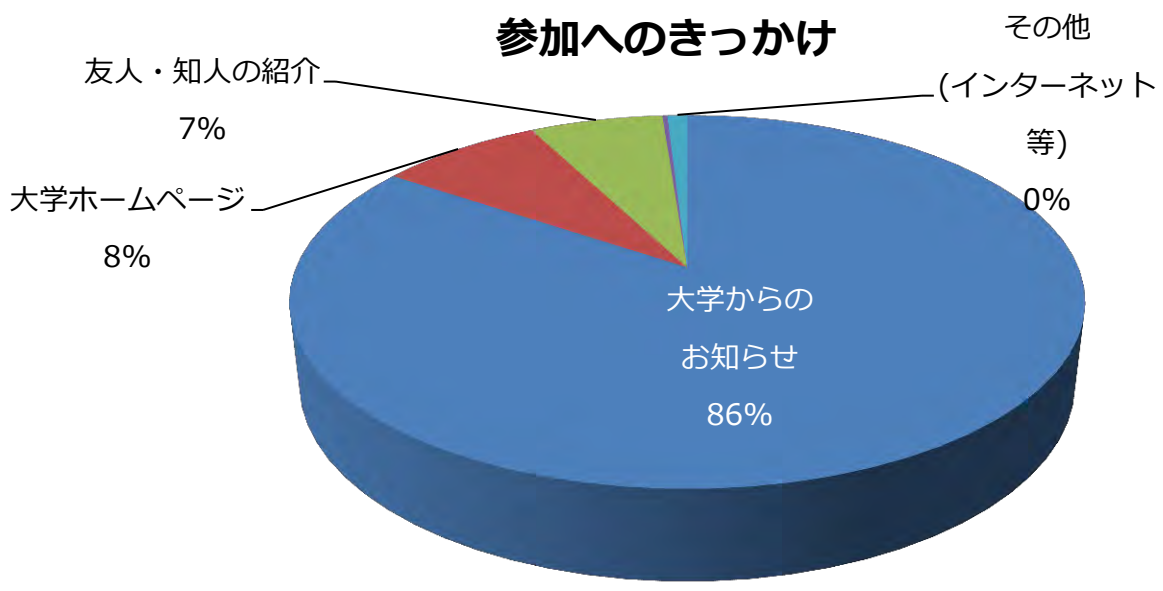


2-2 参加へのきっかけ

単位：人

参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	352
大学ホームページ	33
友人・知人の紹介	27
新聞記事	1
その他（インターネット等）	4

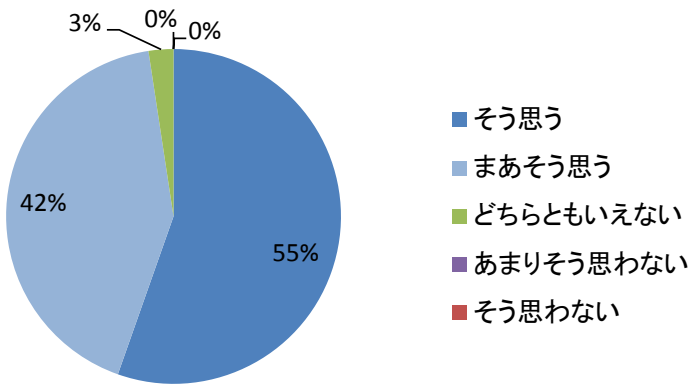
回答数：417人



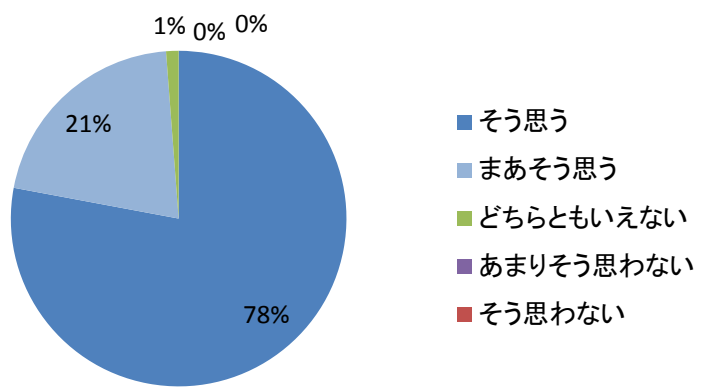
3. 参加後の自己評価　―　アンケートによる集計（単位：人）

回答者数：　417人

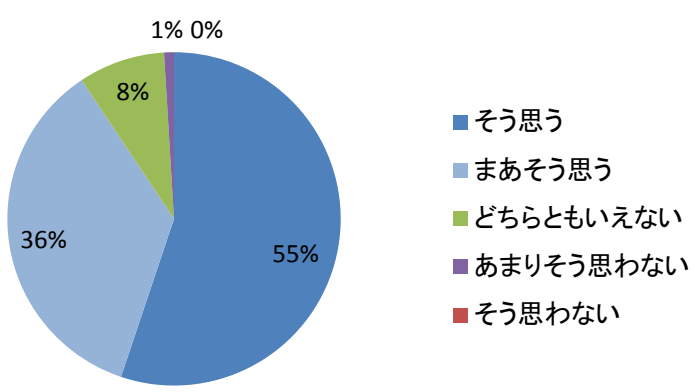
1. セミナーを受講してグローバル人材とは何か
そのために何をすべきかが明確になった



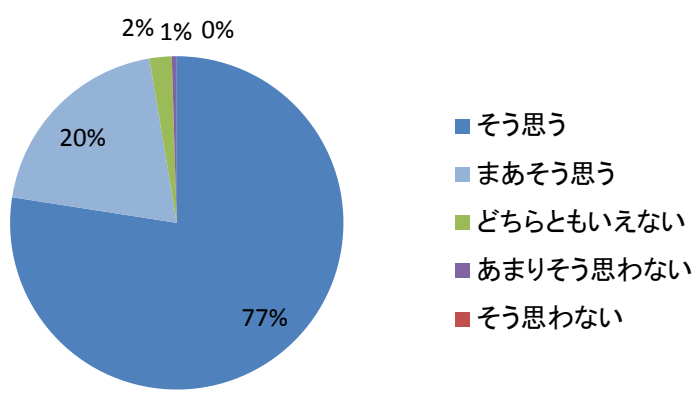
2. 語学力とコミュニケーション力の
必要性ついて学ぶことができた



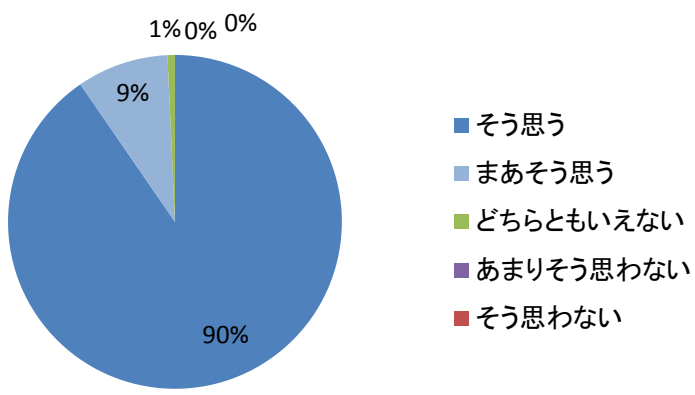
3. スポーツを取り巻く多様な分野や
専門知識の理解が深まった



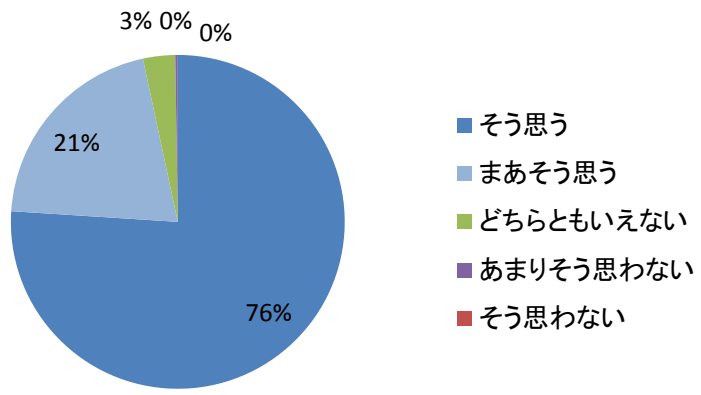
4. 参加する前より語学を学ぶ意義と
学習意欲が高まった



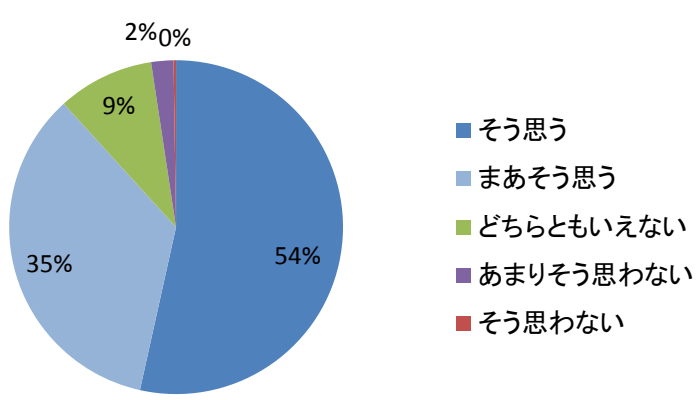
5. 今後、通訳ボランティア実践や様々な活動に
今より積極的にチャレンジしてみたい



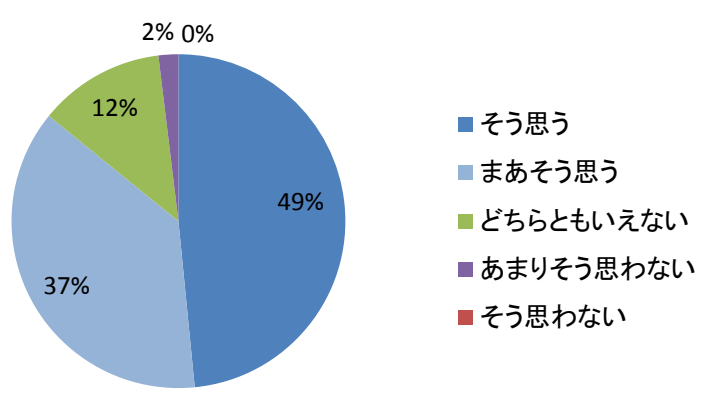
6. 受講前よりスポーツを通じて
異文化・国際交流に興味が湧いた



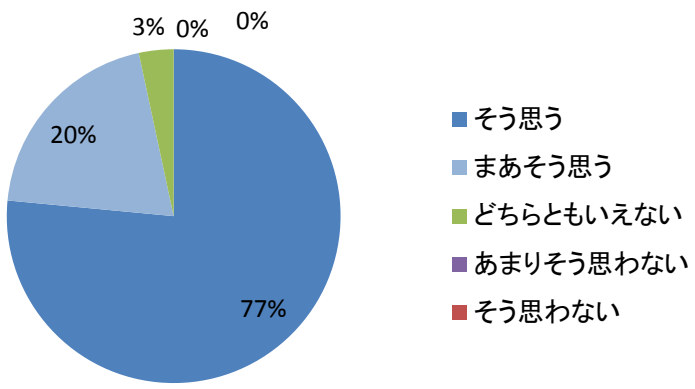
7. 日本人としてのアイデンティティについて考
えるようになった



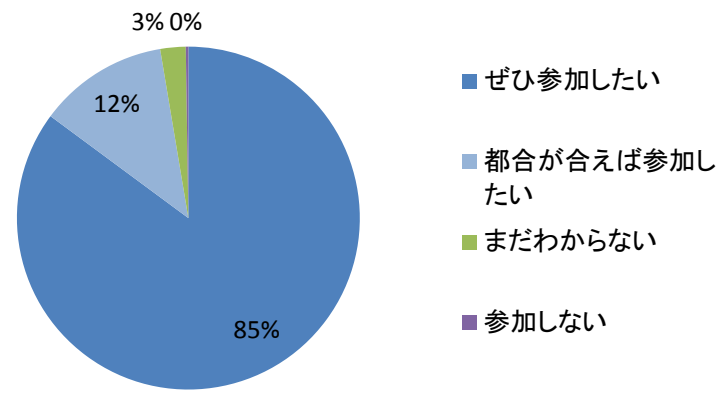
8. 自分の興味・関心がある分野に気付き、
新たな自分を発見した



9. このセミナーを受講して満足している



10. 将来、東京2020オリンピックパラリンピック競技大会に、通訳ボランティアとして関わりたいか？



11. 『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答内容

回答内容	回答件数
新たな気づきがあった、刺激があった、視野が広がった	74
グループワークで、様々な人と仲良くなれてよかった	31
有意義な3日間だった、楽しく学べた、貴重な時間、満足	25
事前連絡のメールをもっと早くほしい	17
他大学の学生ともっと交流したい	11
2日目はACPの着替えがあり、次の講義までの移動時間がぎりぎりだった	8
少人数なので集中して学ぶことができた	6
様々な分野（おもてなしや医療通訳）について学ぶことができた	6
スポーツ大会でボランティアとして活躍することの重要性を理解できた	5
もっと講義を長く聴いていたい	5
ACPやグループワークを初日にやりたい	4
ボランティアに参加して世界の人々・訪日外国人のためになりたい	4
異文化への理解が深まった	4
もっと多くの大学とも連携してほしい	3
外国語を学ぶ意義やコミュニケーション力の必要性を学べた	3
ボランティアに興味、意欲がわいた、モチベーションが上がった	2
また外大連携プログラムがあれば参加したい	2
講義の終了時間、休憩時間を守ってほしい	2
講義時間が短かったので、集中して聞くことができた	2
参加費用が高い	2
将来グローバル人材になるために必要な課題が見えた	2
通訳方法、実践的なについての講義を受けたかった	2
普段関わることのない方の講義が聞けてよかった	2
来年も参加したい	2
ACPが楽しかった	1
これからも様々なことにチャレンジしたい、今後に活かしたい	1
他大学の学生と関わる機会があってよかった	1
東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに参加したい	1
日程（3日間）が長かった	1
日程（3日間）を伸ばしてほしい	1
平昌オリンピックボランティア経験者の話が聞けて良かった	1

※上記「回答内容」に当てはまる回答を「回答件数」としてカウント。　　回答件数合計：231件

4. 各講義内容について

8/29(水)	スポーツ文化
講演者	筑波大学　教授 **菊　幸一**

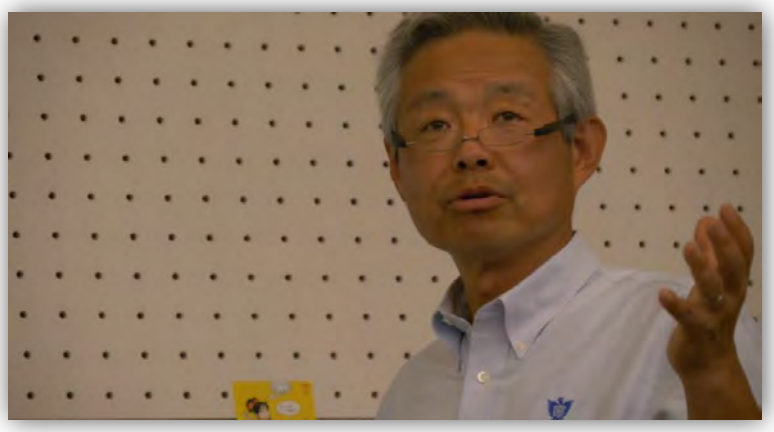
参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆今までスポーツに関わることがほとんど無かったので、スポーツの重要性まで深く考えたことがありませんでした。しかし、この講義を聞いて、スポーツは国と国の境目を無くし、全ての人が対等に闘い、応援し、本当に国境を越えて人々が繋がるものだと思いました。スポーツがもたらすこの現象をより多くの人が気づき、理解できれば、世界平和へ一歩一歩近づける気がしました。（関西外国語大学・3年）

◆自分たちの生活のなかに当たり前にあるスポーツですが、この講義を通してスポーツができるまでの話や、スポーツを「文化」として話を聞いてスポーツに対して見る目が変わりました。今まではスポーツ＝戦いのような感じで見ていましたが、スポーツを通じて人間的に成長したり、世界平和に繋がるなどスポーツがどれだけ重要なのかがわかりました。（京都外国語大学・1年）

◆ スポーツの起源や価値など普段の生活では深く考えない部分についての講義で学ぶことが多かったです。そもそもスポーツは貴族による「退屈からの解放」のために行われていたため楽しさを重視していたことを知り、現代のスポーツの在り方との繋がりがあることに気がつきました。ボランティアとしてスポーツと関わる上で根本的な価値を知っておくことは重要だと思いました。（神田外語大学・2年）

8/29(水)	国際スポーツ界の今
講師	上智大学　教授 GAISF国際スポーツ団体連合元理事 ラグビーワールドカップ2019組織委員会顧問 **師岡　文男**



参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆世界に多くの種類のスポーツがあることがわかりました。オリンピックの種目にはなっていないけど、国際大会が開かれていることや珍しいスポーツに関わっている人がたくさんいることを知って、まだまだ知らないことがたくさんあると感じました。また、師岡先生のいろんなことに参加していく精神に共感し、私もやりたいことは何でもチャレンジしていこうと思いました。（名古屋外国語大学・4年）

◆五輪競技や冬季五輪競技は四年に一度しか行われないのにもかかわらず、総会が毎年行われているということに驚きました。また、今後日本で開催されるスポーツ大会が、ラグビーワールドカップや東京五輪だけでなくバレーボールのワールドカップや世界選手権なども日本で行われるということを聞いて、外国語を身につけることが私たちにとって重要なことなんだなと思いました。そして個人的に、「馬術」を英語で何というか、という質問に答えることが出来なかったことが悔しかったので、東京五輪までには全ての競技名を英語で言えるようにしたいです。（神田外語大学・2年）

◆国際連合では206カ国もの国が集まらない中、オリンピックではそれがあり、最も世界中が注目する機会であると再認識しました。そのため、オリンピックに携わることができるなら、多くの文化、言語に触れることのできることがとても魅力と感じました。（関西外国語大学・3年）

8/29(水)	スポーツとグローバル人財
講師	神田外語大学　講師 スポーツ通訳ボランティア推進室長 **朴 ジョンヨン**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆「じんざい」には4種類あり、そのうちの自分で考え自分で成果を上げられる人財になりたいと感じました。そして私も将来なりたいと思っているグローバル人財にはユダヤ人が多く、彼らの共通点はprofessional,global mindそしてchallenge spiritだとおっしゃっていました。そして私たち大学生でいうと人生の時計はまだ朝の６時でまだまだ始まったばかりです。これからボランティアをはじめ様々なことに挑戦したいと思います。（神戸市外国語大学・2年）

◆今回の講義で、グローバル人財となる条件やトップで活躍している人々の共通点を学びました。いままでスポーツをやってきて、才能のある人を見ると羨ましく思っていました。しかし、彼らも才能と努力があったから、才能が開花したわけであり、努力は必要不可欠であると改めて感じました。私たち学生に求められる資質も学びましたが、やはり残り少ない学生生活でやるべきことは、「今」やりたいことを「今」やるということであると思います。グローバル人財になるために、「place」「thought」「time」を忘れず、これからも学習や、経験の積み重ねに努めていきたいと思います。（長崎外国語大学・1年）

◆グローバル社会での”私自身”の生き方について考えることができた授業でした。AI・グローバル化が進む中、勝ち残るためには人間力がますます必要でありそのために能力を磨き続ける必要があります。私自身が考える必要な能力は提案力、行動実践力、協調力であると考えるのでその能力を鍛えたいです。「プレッシャーがない人生より過酷なものはない」という言葉が授業の中でありそこの圧倒され納得することができました。短い生涯の中で自分自身がやりたいことをとにかくトライして生き続けようと考えることができました。（京都外国語大学・4年）

8/29(水)	スポーツとテクノロジー
講師	慶應義塾大学　教授 **神武 直彦**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆現代社会ではAIや他のロボット技術が発展していて、色々な用途に使用されていて、スポーツ関連の事業にもこのような技術が使われているのはあまり知らなかったので、とても良い経験となりました。他の授業ではスポーツはアナログ文化であるという話が出ましたが、それに加えて新しい技術が入ってくることでさらにスポーツという文化が発展していくのだなと感じました。（神田外語大学・2年）

◆近代のテクノロジーを通してスポーツの発展につなげる講義を聞くことができました。GPSを使うことにより試合中の行動を図り、それぞれのチームの特徴などを知ることから次の試合への目標設定を立てることができます。神武さんは小学生などにもこのGPSを通して、前の試合からGPSで測った自分たちの行動などを知って次にどのようにして生かせばいいのかを考えさせることから、スポーツの発展に力を入れていることがわかりました。（長崎外国語大学・1年）

◆スポーツの様々なシーンで、テクノロジーが活躍しています。カメラやGPS受信機によるパフォーマンス計測を、実際にプロのスポーツチームが起用しています。そのお話を聞いて、私たちがレクリエーションで楽しむようなものもスポーツですが、プロの選手がそういった技術を駆使して、究極まで突き詰めていくものもスポーツであるのだと改めて感じ、「スポーツ」は奥深いのだと感じました。（名古屋外国語大学・4年）

8/29(水)	ラグビーワールドカップ
講師	（公財）ラグビーワールドカップ2019 組織委員会事務総長特別補佐 **徳増 浩司**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆私はこの講義でラグビーの主なルールを学んで、来年のラグビーワールドカップが楽しみに感じられるようになりました。その中でも、特にどちらのサイドもなくなり、お互いのフェアプレーを称え合うという”ノーサイドの精神”は、スポーツの場面においてもですが、もちろん人間の普段の生活にもこういったことを自分自身で意識して生活していきたいと思いました。そして、ラグビーはオリンピックよりも期間が長くなるため、日本は観光の面なども様々な対応を考えて行く必要があると考えました。（名古屋外国語大学・1年）

◆来年の2019年にラグビーワールドカップが日本で開催されるなくらいだった私のラグビーに対しての認識がこの講義を通して変わりました。そもそもラグビーというスポーツがあるという名前しか知らなかった私は、この講義でラグビーというスポーツの基本的な動きなどを知るという所から始まりました。来年に控えているラグビーワールドカップは必ず観戦したいという気持ちになりました。日本で開催されることの素晴らしさも理解しました。ニュージーランドの強さも注目したいです。この講義を聞いていなかったら、テレビで見ていても、何も感じず見終えていたかもしれません。全国12都市で開催され、20のチームが世界からやってくる、48試合ある。この数字は意識したいと思います。ラグビーについての試合をもう少し見てからワールドカップの試合を観戦したいと思います。（神田外語大学・1年）

◆このセミナーに参加するまで私の頭の中には先の通訳ボランティアといえばオリンピックしかありませんでしたが、もうすぐ開催されるラグビーワールドカップもボランティアに参加できる機会になるということが分かりました。既に運営面での募集は終わっていますが、大会開催にあたって増える観光客の案内などには貢献できると思うので挑戦したいです。（神戸市外国語大学・2年）

8/30(木)	国際スポーツボランティア	
講師	神田外語大学　講師 スポーツ通訳ボランティア推進室長 **朴 ジョンヨン**	
発表 （学生）	神田外語大学　卒業生 2018平昌冬季オリンピック ボランティア参加者 **長尾　滉**	神田外語大学 3年 2018平昌冬季オリンピック ボランティア参加者 **蛇沼　香野**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆スポーツイベントにおけるボランティア活動の意義を学ぶことができました。ボランティア活動を通して、世界各国から奉仕しようと多国籍の人々が集まり、言語が違えど皆ボランティア精神を持っているので、互いに認め合い、心を通じ合わせることができることを知りました。またそれが社会のためにつながり、相乗効果を上げることが分かりました。最も最近の平昌オリンピックでは日本からの大勢の人、団体が派遣されていたことに驚きました。ボランティア活動に参加した学生の方は、ボランティア活動中、よりよく活動を続けるために問題提起し、主体的に課題解決を行ったり、異国の言語を積極的に学ぶ姿勢が素晴らしいと思いました。私も機会があれば、自ら考え自発的に行動することを心がけていきたいと強く思いました。（関西外国語大学・3年）

◆国際大会でボランティアをおこなうことで、語学力の向上だけでなく、様々な国の方々と出会うことにより異文化を理解出来るというメリットもあることを知りました。また長尾さんが韓国野球チームの選手たちと東京観光をしたという話を聴き、実際に選手たちと交流出来るという点にもとても魅力を感じました。ボランティアをするには語学や周辺施設の把握が完璧でないといけないと思っていましたが、実際ボランティアに行った方々同士で分からないところは助け合っていたという話を聴き、少し遠い存在に思えていたスポーツボランティアに参加してみたいという気持ちが高まりました。（京都外国語大学・1年）

◆平昌オリンピックで活躍された二人の方から話を聞くことができ良い刺激になりました。二人とも語学力に決して自信があったわけではありませんが、自分を変えたい、参加したいという想いでボランティアをしたとおっしゃっていて、少しホッとしました。今までも通訳ボランティアに参加するチャンスは何度かありましたが、自分の語学力に自信が持てず、参加したいとは思いつつあと一歩を踏み出せずにいました。しかし、いつまでも立ち止まっていては自分を変えることはできないので、勇気を出し挑戦するつもりです。（神戸市外国語大学・2年）

8/30(木)	おもてなしと異文化コミュニケーション
講師	筑波大学客員教授 グローバルマナースプリングス代表 **江上 いずみ**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆「おもてなし」という言葉は2020年東京オリンピックが決まった時からよく聞くが、それがなんのことかははっきりとはわかりませんでした。おもてなしはサービスとは違って見返りを求めない対応のことであるため、ボランティア活動と共通しています。また相手に何かを直接的にしてあげることだけではなく、何気ない挨拶や握手でも、グローバルマナーを守っていると相手も気持ちよくおもてなしになっていくのだと思いました。ボランティアをするときはいろいろな国の方と接すると思うので、この授業を思い出して取り組みたいです。（京都外国語大学・1年）

◆日本の「おもてなし」とは何なのかを江上先生自身が経験したことをもとに、外国と比較しながら教えて下さいました。日本の極め抜かれたおもてなしは素晴らしいなと改めて感じ、オリンピックは外国の方にこの「おもてなし」を日本の大切な文化として発信していくチャンスだなと思いました。また、姿勢や身だしなみ、同時礼と分離礼の違いなど、ボランティア活動の際だけでなく、目上の方と話す時や就職活動など際にも役に立つ話を聞くことができ、日頃から言葉遣いや身だしなみに気をつけることが大切なんだということを学びました。（神田外語大学・2年）

◆「おもてなし」は、海外の文化と比較するとやりすぎと思われるかもしれないが、日本の文化として「相手を思いやる心」を表現することは、日本人として誇りを持って大事にしていきたいと思いました。それこそ、日本人だからできる、ゲストの迎え方であると思います。江上先生が、講義の最後に「おもてなし航空 東京オリンピック行きの機内アナウンス」をしてくださった時、「本当に自分は2020年の東京オリンピックに向けて飛び立つんだ！」と感じ、これからさらに頑張ろうと思いました。（名古屋外国語大学・4年）

8/30(木)	アドベンチャーコミュニケーションプログラム（ACP）	
講師	神田外語大学　教授 体育・スポーツセンター長 **市瀬　良行**	神田外語大学　講師 **江川　潤**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆積極的に体を使ってコミュニケーション能力を高める授業は今まで履修したことがなかったので、新鮮な気持ちで取り組むことができました。自然と会話する機会があり、他大学のさまざまなな学年の学生の皆さんと交流できたので、お互いに情報交換したり、通訳ボランティア活動の経験、参加動機など聴くことができ刺激し合って楽しむことができました。以前の私は、人の動きを観察して、行動に移すことが多かったので、受け身の姿勢ではなく、主体的にみんなを巻き込む力の必要性を肌で感じました。コミュニケーションを取ることで、信頼関係を築くことができました。限られた時間の中で、体を動かしながら対話をすることでチームワークを作りあげることの面白さや楽しさを実感しました。実際にボランティア活動に参加する機会があれば、積極的にコミュニケーションを取りたいと思います。（関西外国語大学・3年）

◆この講義を通して、みんなで協力する事で成し遂げることができた時の達成感や、何かを成し遂げた時のみんなの笑顔、いろんなアイデア、1人ではできない事も周りと協力することでできるということは、心の中が凄く満たされることを知りました。そして何よりも、知らない人達と積極的にコミュニケーションをとりながら何かを成し遂げることは、スポーツボランティアで凄く活かせる事だと思いました。スポーツボランティアだけでなく、これからの生活の中でも活かしていきたいと思います。（長崎外国語大学・1年）

◆この講義を通して、人と助け合いながら１つのものを作るというのは素晴らしいなと思いました。名前も知らない人と運動をするにあたって、その中で知らずのうちに協力しあっているというなんとも不思議な感じでしたが、これは通訳においてとても重要だと思います。ひとりでは絶対に解決できないことがたくさんある上で、人と協力する大切さを学びました。（京都外国語大学・1年）

8/30(木)	組織とリーダーシップ
講師	NPO法人　CRファクトリー　代表 **呉　哲煥**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義を通じて、リーダーシップの大切さを学ぶことができました。私はあるイベントの責任者をやっていることもあり、この講義はとてもためになりました。コミュニティマネジメントあるあるのスライドではとても共感しました。しかし、なぜそのようなことが起こるのか、コミュニティを良くするための観点とは何なのかについて考えたことがなかったので、この講義を機に考えることができ、自分の考えも変わりました。リーダーがひとりで全て抱えれば上手く行くというわけではないのだと知ることができました。これから私が組織を築くようなことがあった場合、メンバーを上流のプロセスから巻き込み、当事者意識を持たせるようにリーダーシップをとっていきたいと思いました。（神田外語大学・3年）

◆今までに何度もリーダーを経験してきました。頭のなかでいろんなことを考えて行動してきましたが、専門の方から学ぶことは、自分にとってすごくプラスであったと感じました。自ら志願してのリーダーになった場合と、他からの推薦などで決まった場合とでは、リーダーとしての気持ちも大きく変わってきます。よく、リーダーは嫌われ役にならなければならないと言われていますが、嫌われることが目的ではなく、まとめあげ引っ張ることが目的であるので、慕われるリーダーもいます。そんなリーダーになるために今回学んだリーダーシップを発揮して、よりよりチーム間の関係を築いていきたいと思います。（長崎外国語大学・1年）

◆私は自分に試練を与えようとやったことのなかったリーダーに立候補し実際にやったことがあります。そのときは全く人に求められず悔しい思いをしました。この授業はリーダーとしてどう行動するのがいいのかだけでなく、日々の生活にもいかされることを学びました。私はは東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに参加したいと思っているので、ここで学んだ事は団体で過ごす中で大いに生かされると思います。組織の一員としてできること、やれることというのを常に意識しながら行動していきたいです。（名古屋外国語大学・1年）

8/31(金)	訪日外国人・観光動向
講師	株式会社やまとごころ　代表取締役 インバウンド戦略アドバイザー **村山 慶輔**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義では、訪日外国人や観光についてお話を聞きました。私は今韓国語を学んでおり、この話を聞いて自分が学んでいる言語はこれから求められるのではないかと思いました。しかしながら、韓国人のなかには日本語が話せる人が数多く存在するので、私が韓国人の方の通訳をする際は、語学のスキルが高いことはもちろん、相手の文化背景を理解できる通訳者となることが大切だと思います。そして、これからも増えるであろうアジア圏からの訪日外国人に対応できたらいいなと思います。（神田外語大学・2年）

◆アジアの国から来ている外国人が、訪日外国人の割合を占めているのは納得しました。ヨーロッパやアメリカから来ている外国人の方が目立つが、東京や京都など、日本の観光地として知られる有名な場所には、どこにも中国や韓国から来ているであろう外国人が多くいます。顔が似ているので気づきにくいが、アジアからの訪日外国人は、日本の観光産業の中で大きなウエイトを占めています。そして今、日本では”アニメの聖地巡礼”を目的とするツアーが外国人に人気です。これらは日本の主要観光地だけではなく、今まであまり注目を浴びてこなかった場所まで観光客を呼び寄せています。そうすることでその地域が活性化され、プラスの方向に経済が回っていきます。私の住んでいる場所は田舎で、観光客などいない状況ですが、何かツアーなどを組むことができれば、この地域も活発になっていくのだろうと考えるきっかけになりました。（名古屋外国語大学・1年）

◆実際にビジネスの現場で働いていらっしゃる生の声を聞かせてもらえるのはとても貴重で、興味深かったです。日本人の消費を高めることよりも、新たな外国人顧客を獲得・リピートしてもらうことでより経済を活性化できます。それを成し遂げるためには、まずはターゲットとなる外国人が何に興味を持っているのかをもっと知る必要があると感じたと同時に、自信をもって日本の魅力を伝えられるよう言語だけでなく日本文化についての知識もつけていきたいです。（神戸市外国語大学・2年）

8/31(金)	比較文化論（受講言語：英語）	
講師	神田外語大学　教授 **矢頭 典枝**	神田外語大学　講師 **北村　孝一郎**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆矢頭典枝先生：英語モジュールを使っていろんな国の英語を聞きました。とくにアメリカ英語とイギリス英語の違いについて学びました。発音の仕方が違うだけで、通じなかったり、違う意味に捉えられてしまう可能性があるんだなと思いました。また、シンガポール英語を聞きましたが、全く聞き取れなくて英語が話せてもさまざまな英語を知らないとコミュニケーションを取ることは難しいと思いました。（神田外語大学・2年）

◆矢頭典枝先生：英語の発音やアクセント、文法などに注目し、比較を行いました。同じ英語であっても、国により、単語の綴り、発音などが異なっていることを改めて再確認することができました。通訳ボランティアをする際、世界中からきた観光客を相手に、英語で話す必要があります。ある程度、事前に対策をしておくことが、とても大事なことだと思いますが、その中でも聞き取りにくいこともあると思います。そんな時こそ、焦るのではなくその違いを楽しみながら活動していけたら、より相手も満足してくれるような対応ができると思います。（名古屋外国語大学・2年）

◆北村孝一郎先生：この講義を通して、自然な英語の会話をするために必要なことを学びました。shadowing(音声と同じスピードで読む）の大切さやキッチンに立つと英語が話せなくなること、日本人の解釈と外国人の解釈の仕方は違うということを学びました。そして、自分の趣味や興味のあるものについて英語で話せるようになること、それらに関する単語帳を作っても面白い、と教えていただきました。さらに実際にオリンピックの通訳ボランティアをされて、メディアのボランティアはとてもいい経験になったとおっしゃっていたので、興味が湧きました。（京都外国語大学・1年）

◆北村孝一郎先生： 私は様々な国の文化について興味があり、これまで調べたり話を聞いたりしてきました。しかし、文化は幅広くまだまだ、知らないことがたくさんあります。そんな中、海外に留学などにいくと、文化の違いによって多くの困難があると思います。しかし、まず大事なのは相手の文化を知ろうとする精神が大事だと感じました。日本の文化が当たり前なのでないと心に留め、もっと文化について学習していきたいと思います。また、スポーツという文化は世界共通なので、スポーツを通して深く相手を知ることができたら、もっと輪が広がるのではないかと思います。（長崎外国語大学・1年）

8/31(金)	通訳技法（受講言語：英語）	
講師	神田外語大学　教授 **小坂　貴志**	日英通訳・翻訳・ボイスオーバー **中曽根　俊**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

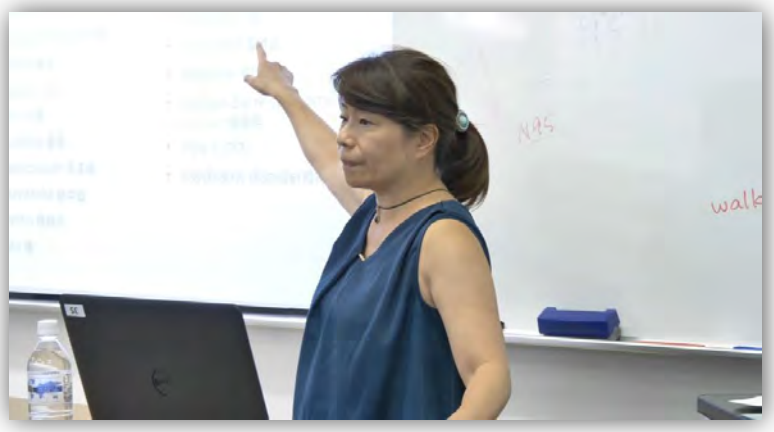
◆小坂貴志先生：この講義を通して、私は通訳の大変さを改めて感じました。まず、通訳にいくつもの種類があるのだと、この講義を受け初めて知りました。これまで、なんとなく言語を学んでいるのだから通訳や翻訳の仕事に就くのだろうと漠然と考えていましたが、今回の講義で今のままの甘い考えでは通訳者や翻訳者になんてなれないのだと実感させられました。さらに、講義の中で「アスリートは言葉のプロではない。したがって、わかりやすいように話してくれる訳では無い。英語を話すからと言って、それがアスリートの母語とは限らない。したがって、英語の間違いだってあるだろうし、聞き取りにくいことも多々ある。」という言葉にその通りだとはっとさせられました。これからグローバルな人材になるためには、自分の英語の力を伸ばすだけでなく、相手の英語を補う力も備えていかなければならないのだと感じました。（神田外語大学・1年）

◆小坂貴志先生：この講義で実際に通訳をしたのは初めてで、すごく面白いと感じました。簡単なものではあったが、会話の間に入って通訳することは、誰かの役に立っていることを肌で感じられるのですごくやりがいがあるなと思いました。自分がいなければ、この2人は会話が可能でないので、存在意義のようなものを感じて、通訳という仕事の重みと面白さを知りました。通訳と一口に言っても、様々な技法があり今回はロールプレイだけを行いましたが、いろんな通訳という仕事を経験したいと感じました。（長崎外国語大学・1年）

◆中曽根俊先生：この講義を通して、スポーツ通訳に必要なことが明確に理解できました。通訳は守秘義務があると聞き、本当に重要な役割を任されるのだと実感しました。通訳者が話したことはそのまま観客に伝わることになるので、浅はかな知識を無理に絞ってはならず、常に正確な情報収集が必要だと知りました。そして通訳者の言動で選手やスポーツのイメージや質が簡単に変わってしまうのだと思いました。（関西外国語大学・3年）

◆中曽根俊先生：実際にスポーツ現場でフリーランスで活躍されている通訳の方からお話を伺うことができました。スポーツの通訳における必要な要素として、言語が流暢に使えて、様々な言い回しができることの大切さや自分から有用な情報を手に入れることが大切であることを学びました。また、通訳には事前準備がとても大切で、情報や知識を勉強しておくことが良い通訳をするための要素だと感じました。スポーツの知識だけでなく、病気やけがなども起こりうるスポーツではケガなどの医療知識も勉強しようと思います。
(京都外国語大学・4年)

8/31(金)	医療通訳技法（受講言語：英語）	
講師	南新宿整形外科　理学療法士 **伊藤 博子**	日英通訳・翻訳・英会話講師 **大饗 里香**



参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆伊藤博子先生：医療現場での通訳について、よく起こるケースや東京オリンピックで起こり得るとされている事を詳しく教えて頂きました。通訳をするのに単語ノートを単元別に作ったり、実際に通訳をしている時に起こるミスへの防ぎ方等リアルなお話で、仕事としての通訳の事を聞くことができました。（関西外国語大学・4年）

◆伊藤博子先生：実際の現場で医療について必要な英語や情報について教えてくださり、実際に使いそうなもので勉強になりました。医療の現場で通訳するということの責任の重要さ、患者や医師の言葉をそのまま伝えるため英語だけでなく、医療や病気についても勉強しなければいけないことが分かりました。その上自分の身を守ることの大切さや、現場で臨機応変に動かなければいけないことに気付くことができました。（京都外国語大学・4年）

◆大饗里香先生：この講義を通して、医療英語を幅広く知っていなければ実際に使うことはできないと感じました。日本語でも痛みを伝える際多くの表現があるように、英語にも多くの表現があります。それは当たり前ではありますが、知らなければどう対処していいかもわかりません。通訳としてボランティアするためには、実際の現場に出た時に最大限のサポートができるように、多くの医療英語を身に付けたいと思います。（長崎外国語大学・1年）

◆大饗里香先生：今まで学んできた英単語は実用的というより受験用、長文読解用という毛色が強かったので、こういった生活に根付いた英単語に少しでも触れられてよかったと思います。またボランティアの時だけでなく、海外旅行時などにも使えるため、医療単語やその他日常生活で重宝しそうな単語をもっと覚えておきたいと思いました。また、同じ“痛い”という意味でも色々な表現があったり、日本語で簡単に言えることが英語だと全くわからなかったりと自分の知識不足を改めて感じました。その他に、医療通訳において私情を挟まず正確に伝えることが重要であること、自分の能力が限界の場合はすぐに申し出る勇気も必要であることなどの注意点も知ることができました。(神田外語大学・1年)

8/31(金)	比較文化論①②（受講言語：中国語）
講師	神田外語大学　教授 **花澤 聖子**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義を通して、食事の取り方、挨拶の仕方、喧嘩のやり方、冠婚葬祭のしきたり、売買契約のかわし方、選挙のやり方、その他生活様式万般などの多くの面での文化の相違がある事が分かりました。ただ相違と言っても、摩擦を生じやすいものまであります。両国で、コミュニケーションの仕方は感謝、謝罪、挨拶などの些細な面でも異なります。中国では、謝罪は一生をかけて謝るため、そう簡単には自分の非は認めないそうです。ですが、日本人からしてみれば、その場を収めるためにもすぐに謝罪をします。このような文化の違いを理解してないとトラブルが起きてしまいます。防ぐためにも互いの文化を学ぶ大切さを学びました。（神田外語大学・1年）

◆日本と中国は近隣してる国であり、昔からの影響により、似る文化もたくさんあります。しかし、似たような漢字を使っているにも関わらず、同じ漢字を使っているとしても、意味が異なる場合も少なくありません。そして花澤先生は、自分の国の文化を持って、他人の行動を評判してはいけないとおっしゃいました。今までの人生を振り向いてみると、確かに自分の先入観で人のことをはかることは少なくありません。グローバル化なった今は、いろんな文化を理解することはその国に対する尊重であると感じました。（関西外国語大学・4年）

◆普段の大学での講義でも中国と日本の文化の違いについて触れることはありましたが、例えば謝る際日本では「ごめんなさい」、「すみません」など定型表現が主でも、中国では「遅れました」という事実認めなど非定型表現が使われているということのように、コミュニケーションを図る上で大切な中国文化に対する理解をより深めることができました。（神戸市外国語大学・2年）

8/31(金)	通訳概論・技法（受講言語：中国語）
講師	大学セミナーハウス所属・ 東京外国語大学兼任講師 **孫　国鳳**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆最初は、誰でも完璧にはなれないが、後の勉強は最も大切なことです。文書やカンバセーションを訳す際に、訳せないところがあったらどうすれば良いのか、色々なトラブルが発生することに恐ろしく、諦めることが多かったが、これからは、ミスを恐れずに、勉強しながらがやっていきたいと自分の中で決めました。（関西外国語大学・4年）

◆この講義を通して、実際に通訳として活躍する際に、どのような事が聞かれるかなどを教えていただきました。日中通訳として認識すべき事は、優れた言語力を身につけるべきで、中国語だけでなく、母国語のレベルも求められる政治・経済・文化科学技術等に関する日中両国の状況を知る事が必要で、時代の変化に対応出来る知識を常に身につけていくことも大切、「コミュニケーション・コーディネート」としての役割を果たすよう努力する事が必要、これらの三つだという事を教えていただきました。今回の講義は通訳ボランティアで実際に活かせる事を学ぶことができました。（神田外語大学・1年）

◆通訳というものはただ言語と言語を対応させていくことと思いがちですが、言葉を構成する漢字の意味をまで考えより近いものに変えることや、通訳者個人の「我」は存在しないため話者になったつもりで分かりやすい例であれば三人称を使うのではなく、一人称を使い会話のキャッチボールをスムーズに行うサポートをする必要があるということが分かりました。更に、実際に観光客の方から聞かれる場面を想定して通訳をしようとした時、自分が何も言えないことに気づかされました。オリンピックまでに準備できることは早いうちからできる限りしようと思います。（神戸市外国語大学・2年）

8/31(金)	比較文化論①②（受講言語：韓国語）	
講師	神田外語大学　教授 **林　史樹**	神田外語大学　講師 ／スポーツ通訳ボランティア推進室長 **朴 ジョンヨン**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆林史樹先生：韓国の地域の歴史、地域の概略、気候と生活、地域の注意点、韓国におけるスポーツ文化の発展などと様々なお話を聞き、盛りだくさんでとても面白いものでした。中でも、私がこれから韓国人の方を通訳する可能性があるという事を考えると、地域の注意点というところが大切だと思いました。上下関係と反日感情です。この2点をよく理解して、相手に接することが大切だと学びました。（神田外語大学・2年）

◆林史樹先生：この講義では、主に日本と韓国の違いについて学びました。地域の違いや歴史、気候や生活については知っている人も多かったですが、著名なスポーツ選手となるとわからない部分が多かった。スポーツも種目を限定せず広く観ていきたいです。（長崎外国語大学・4年）

◆朴ジョンヨン先生：この講義で印象に残ったのは、文化は人間だけが持つものだという言葉です。文化は継承性が無ければ文化とは言いません。動物は新しく発見しそれを繰り返す習性はあるが、後世に継承されず文化を持っていません。人間だけがもっているこの文化というものをもっと知り、発展させていかなければ途絶えてしまうという危機感が芽生えました。（長崎外国語大学・4年）

◆朴ジョンヨン先生：朴先生の講義はとてもアクティブで楽しかったというのが第一の感想です。文化とは？というテーマで様々なことをみんなで話し合いましたが、文化という言葉の成り立ちを初めて知ってなるほどと思いました。動物には文化があるのか、スポーツは文化になるのかなど様々なことを話し合って色々な人の考えを聞けてとても面白かったです。そしてこの講義を通して、スポーツは文化だと思いました。これから先もきっとスポーツは受け継がれると思ったからです。また、勇気を持って人と接することの素晴らしさを教えていただきました。本当に良い講義でした。（神田外語大学・2年）

8/31(金)	通訳概論・技法（受講言語：韓国語）
講師	神田外語大学 講師 **本田 恵子**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆通訳するときの実践的な方法を学びました。逐次通訳する際には話の重要な部分をメモして、内容を相手にしっかりと伝えられる力をつけることの重要性を学びました。（神田外語大学・3年）

◆この講義を通して、通訳をする時に求められる正確さやヒアリングの向上の大切さを学びました。実際に音声を聞いた時、何を言っているか理解できますが、１つ１つの単語を正確に聞き取り正確に訳することはできなかったため、自分はまだまだだと思いました。もっとさらに上を目指したいと思います。これからの勉強に対する意欲がより強くなりました。（長崎外国語大学・1年）

8/31(金)	比較文化論①②（受講言語：スペイン語）	
講師	神田外語大学 教授・副学長 **柳沼 孝一郎**	神田外語大学　准教授 **アルセニオ サンス リベーラ**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆柳沼孝一郎先生：グローバル人材を目指すにあたって「日本が今世界的にどのような位置にあるのか」ということに常に興味関心を持つことが大切だということを学びました。（神田外語大学・1年）

◆柳沼孝一郎先生：メキシコの歴史に触れる機会となりました。授業でイベロアメリカ地域の歴史等を勉強する機会はありますが、その時はメキシコ以外の南米地域やスペインの歴史についてばかりでした。今回はメキシコの歴史に特化して学ぶことができ、もっと深く学びたいと思うようになりました。メキシコと日本の関係についても学びたいです。（神田外語大学・1年）

◆Sanz Rivera Arsenio先生：先生自身の経験などからの、スペイン語と日本語の違いの興味深さが今でも心に残っています。言葉一つで伝えたかったものが意味が違った解釈も取られる場合があるので、言動に注意していこうと思いました。（関西外国語大学・3年）

◆Sanz Rivera Arsenio先生：「通訳」はただ単に相手の言ったことを正確に訳すことではなく、いかに相互の異文化や価値観などを理解した上で適切に通訳を行うことが重要なのだということを学ぶことができました。（神田外語大学・1年）

8/31(金)	通訳概論・技法（受講言語：スペイン語）
講師	神田外語大学　講師 **渡部 美貴**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆通訳をする際は、わからないことは事前に学んでおく・どんな人たちが聴くのかあらかじめ知っておく必要があるということ、さらに人名の発音の仕方には注意が必要であるということを学びました。（京都外国語大学・3年）

◆翻訳をする際の心得といった基本的な点から、映像資料を使った、ヨーロッパ言語の名前の種類（同じ名前でも発音や綴りが変わるなど）を良く理解することができました。（神田外語大学・4年）

8/31(金)	比較文化論①②（受講言語：ポルトガル語）	
講師	神田外語大学 准教授 **高木 耕**	神田外語大学 准教授 **奥田 若菜**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆高木耕先生：主にカルチャーショックや与えられている情報の偏りについて学びました。普段の生活の中で気にしないものを気にして見ることで様々な偏りがあること、また自分自身もそのような考え方を持っていることに気がつきました。東京オリンピックに向け様々な活動が行われている今、本当に必要なものは何かを考えることができました。私は、海外でカルチャーショックに陥った経験があり、その経験を生かして訪日・在日外国人や国内でもカルチャーショックに陥っている人々に寄り添い、力になりたいと感じました。（神田外語大学・2年）

◆高木耕先生：知識を持っているのか持っていないのかだけで、カルチャーショックの大きさは変わってくるのだと学びました。全ての可能性を考えていきたいと思います。（神田外語大学・2年）

◆奥田若菜先生：同じ公用語でもその中に違う言語があると知りました。それは日本人も同様であり、方言などに似ているのかと感じました。また在日ブラジル人の子どもたちが発達障害や自閉症を持っていないのにそのような扱いを受け、別の学校に行かされていることやダブルリミテッドの子どもがいることも知りました。今まで大人の目線中心に在日ブラジル人について考えて来ましたが、日本で教育を受け生きていく子どもたちの気持ちになって考えてみたいと感じました。小学校で行われている教育システムも知ることができました。私は教職をとっておらず、学校などで直接的にそのような子供達と関わることは難しいかもしれませんが、日々の生活の中でも力になれることがあったら是非協力したいと感じました。（神田外語大学・2年）

◆奥田若菜先生：ポルトガル語の通訳の仕事の種類や今日本に住んでいるブラジル人のことについて勉強しました。そして沢山の課題を知ることができました。（神田外語大学・2年）

8/31(金)	通訳概論・技法（受講言語：ポルトガル語）
講師	神田外語大学 講師 **Gustavo Meireles**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆通訳は一つのコミュニケーションであるという言葉に新たな感動を得ました。それは、ただ言葉を伝えるだけだったら今話題のAIにもできることですが、会話は相手の置かれている状況や相手の気持ちを理解する必要があるため人間にしかできないと感じたからです。しかし、それには言語能力だけでは通訳としてコミュニケーションを行うことはできません。「理解=言語的な知識+言語外知識+分析」　この式が必要であると学びました。相手の国の文化や様々な知識を持っていれば、難しい言葉を伝えなくてはいけない場面でも何通りかの伝え方を考えることができます。また、それが相手に伝える際相手を傷つけてしまはないか、などと分析することも相手の気持ちに立って会話する上で大切なスキルだと感じました。（神田外語大学・2年）

◆ブラジル人に通訳をしようと思っても、ブラジルの教育の差や日本でしか伝わらないポルトガル語が存在することを知りました。多様なポルトガル語の対応できるように頑張りたいです。（神田外語大学・2年）

8/31(金)	アスリートと人間力
講師	筑波大学　教授 1984年　世界柔道選手権金メダル 1978年～1987年　全日本女子柔道体重別選手10連覇 1988年　ソウルオリンピック銅メダル **山口　香**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆この講義を通して、選手がオリンピックにかける思いを理解することができました。選手にとってオリンピックは本当に貴重で大きな舞台であり、一瞬も無駄にしたくない場所なので、その場所に私たちが関わるかもしれないと思うと、選手と同じように不安と楽しみの気持ちがこみ上げてきました。選手の気持ちも、オリンピックを見ている人の期待も崩さないよう、ボランティアが一丸になってオリンピックを支えたいと思いました。（関西外国語大学・3年）

◆この講義では、実際に選手としてオリンピックに出場した経験からわかる、大会への考え方や大会を一緒に作り上げていくボランティア人財に求められる物について理解することができました。選手を理解することはそのサポートをする側に求められる能力であると再確認することができました。認知し、判断し、決断することをいかに素早く的確にできるように日頃から自分の行動にもっと責任を持ち考えなから行動したいです。（神田外語大学・2年）

◆オリンピックメダリストの方のお話を聞けることはとても特別なことなので、とても印象深く、楽しい時間でした。ボランティア側の立場ではなく、アスリートの立場からお話を聞けたことで、実際ボランティアに参加する際にどうアスリートを支えることができるか、考えるいい機会になりました。（長崎外国語大学・3年）

8/31(金)	訪日外国人・観光動向
講師	米国Berklee College of Music卒 2005～2008年島村楽器ギター講師 **吉原　聡**

参加者課題『講義レポート』より　※編集の都合上，一部表現を編集しているものがあります

◆吉原先生のグローバル化と音楽の講義を通して、音楽は世界共通言語であることや、音階で気持ちを表現することができることを学びました。現在、多種多様な音楽のジャンルが存在することを知ると同時に、演歌やブルースみ用いられる音階や長調や短調の音階、日本人に馴染みのあるものや、琉球音階など、さまざまな音階の存在を知りました。他にも、音を使って言語習得を目指すことができることを先生は証明してくださいました。スポーツの国際大会のためのボランティア活動に参加する機会があれば、共通の話題である音楽を通じて交流したいと考えます。これからも先生のように、常に向上心を持って、自分の将来のための投資として、まだ知らない世界や領域に興味関心を持ち続け、自分の感性を養い、磨くことで今後の成長につなげたいを思います。（関西外国語大学・3年）

◆今まで受けた講義の中で、臨場感に溢れる時間でした。まだまだ、話をじっくり聴いていたいような空間で、音楽の持つパワーを体感することができました。楽器を奏でることによって、ノンバーバルコミュニケーションの構築に役立てることができ、言語を超え異文化が一体化する感動を味わいました。（神戸市外国語大学・3年）

◆吉原先生が、楽器を実際に演奏してくださって、講義を受けている生徒と全員が喜びと感動でいっぱいになった光景を見て、音楽は人々を言語の壁を超えて人々を結ぶことができる力を持っているということを実際に感じることができ、人とのコミュニケーションは言葉が全てではないのだなと思いました。また、吉原先生が今まで色々なことに挑戦してきたという話を聞いて、大学生のうちに色々なことに積極的に挑戦しようと思います。（神田外語大学・2年）

5. セミナーの様子（写真）

▲神田外語大学学長より挨拶

▲受付の様子

▲山口香氏による「アスリートと人間力」の

▲スポーツを通してグローバル人材とは何かについて語る 本学 朴

▲受講生からの質問に答える平昌オリンピック経験者

▲アドベンチャーコミュニケーションプログラム（ACP）

▲受講者424名